

# I 基本編



# 1 くまもと「親の学び」プログラム

## スマイル（小学生期）編とは？

このプログラムは、主に、小学生の子どもをもつ保護者を対象とした参加体験型の家庭教育講座（「親の学び」講座）を進行するための解説書です。

「親の学び」講座では、小学校の教職員やPTA役員、学童保育や子育てサークル等の指導者、家庭教育支援や子育て支援にかかわっている方々が、進行役（ファシリテーター）となることができます。

進行役は、一方通行の講義をするのではなく、伝えたいねらいやメッセージを明確にしつつ、参加者の気付きをサポートし、参加者と一緒に講座をつくりあげていく役割があります。

本解説書では、プログラムの基本となる展開例等を示していますので、参加者の人数や講座の時間、保護者の要望に応じて、アレンジして活用してください。また、スタート編（乳幼児期編）の内容と組み合わせたり、関連をもたせたりすると、「親の学び」講座がより一層充実したものになるでしょう。

この「親の学び」講座を通して、子育て中の保護者が自信をもって、健やかな子どもを育てていこうという意欲を高め、親として大切なことを学ぶ一つの手がかりとなれば幸いです。

それぞれの機会に、このプログラムを活用していただき感想等をお寄せください。必要に応じて適宜増補していき、より充実した解説書にしていきます。



「キャンペーンロゴマーク」  
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のよ  
うに健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む  
家庭、地域のまなざしを表現しています。  
安富 勝弘さん(熊本市)の作品

## **2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？**

「親の学び」講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。参加体験型学習では、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方向から聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり話し合ったりすることを通して、今まで気付かなかったことに気付いたり、大切なことを再認識したりすることができます。

### **☆参加体験型学習で大切なポイント**

#### **ポイント1 主体的な参加**

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、発言をすることによって、これまで気付かなかったことに気付いたり、もともと知っていたことについて、改めて大切であることを確認したりすることができます。そのためには、一人一人が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要になります。

また、発言をためらっている参加者には「無理せず発言できるときに発言する」というスタンスで気軽に参加してもらうように配慮しましょう。

#### **ポイント2 お互いに学び合う**

グループ内で意見を出し合ったり、全員で気づきを発表したりする活動を通じて、多様な視点や考え方があることに気づき、ねらいについて学ぶことができますが、その際、お互いの意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、発言を引き出すような進行役からの声かけなどが大切になります。

「参加者一人一人の意見によって、他の参加者の学びにつながっていく」という意識を持ってもらうことが大切です。そうすることによって、自分と違う価値観を持つ人の意見も受け入れやすくなることを伝えましょう。

### 3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、全体の流れを進めていく「進行役」（「ファシリテーター」ともいう）の役目が大切です。進行役は「講師」とは違い、自分の知識や考えを参加者に伝えることが役目ではなく、参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が「気づき」を得て何かを学ぶことを助けることが役目です。

このため、専門的な知識や特別な経験がない人でも、以下のようなことに気を付ければ、参加体験型学習の進行役になれます。

#### ☆進行役に求められること

##### (1) 雰囲気づくり

- ・ 進行役は、笑顔が1番です。  
自信をもってはっきりした声で、ゆっくりと話しましょう。
- ・ 話し合いの前に「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は気が楽になり発言しやすく感じます。
- ・ 発言は、話せる範囲で話すといよいことを伝えましょう。参加者は安心して参加できます。
- ・ 参加者一人一人の人権が尊重され、安心して講座に参加できる場としましょう。

##### (2) 主体性の尊重

- ・ 参加者の意見を受けとめ、よく聞き明るく丁寧な言葉で対応する等、進行役が人権尊重の視点を常に持って進行することが大切です。
- ・ 参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が何かに気付いたり、「なるほど」と再確認できたりすることを大切にするように促しましょう。
- ・ 進行役自身の考えを押しついたり参加者の発言を批判したりしないことが大事です。参加者一人一人の主体性を尊重しましょう。

##### (3) 流れの調整

###### ①参加者に合わせた進行

- ・ 参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
- ・ 参加者の様子を見て、予定より時間が必要と判断した場合には、時間を延ばしましょう。用意した内容の全てを行う必要はありません。  
(時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするかを事前に考えておくと、その状況になったときに慌てなくて済みます。)

###### ②テーマに沿った進行

- ・ 漠然と話し合いをするよりも、各プログラムの「テーマ」をはっきり示すことで、より話し合いが深まります。
- ・ 話題がテーマから離れた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに沿った話題に戻すように心がけましょう。

## 4 「親の学び」講座の組み立て方

「親の学び」講座を開催するとき以下のことを考えましょう。

### 1 講座開催の機会

いつ？

- ①単独で「親の学び」講座を開催する場合  
例：P T A研修会や教育講演会、家庭教育学級 等
- ②他の目的のために集まり、その中の1つとして「親の学び」講座を開催する場合  
例：学年・学級懇談会やP T A総会、部活動の保護者会、就学時健康診断や1日体験入学、学童保育の保護者会 等

### 2 集団の構成

だれと？

- ①同級生、同学年の子どもをもつ保護者の集まり  
例：学年・学級懇談会、就学時健康診断、1日体験入学、学年・学級P T A活動 等
- ②異年齢集団（子ども）の保護者の集まり  
例：P T A総会やP T A研修会、部活動総会、学童保育や子ども会の保護者会、地区懇談会 等

### 3 講座の設定時間

どのくらい？

- ①単独で「親の学び」講座を開催する場合  
例：45分や60分の講座
- ②他の目的のために集まり、その中の1つとして「親の学び」講座を開催する場合  
例：学年・学級懇談会の45分の中の20分間  
P T A総会や部活動総会の始まる前の5分間 等

### 4 参加人数及び講座を行う場所

どこで？

- ・参加者は何名か。
- ・どこ（会場）で行うのか。会場は人数に対して適当な広さか。その際、机や椅子の有無はどうか。

## 5 プログラムの活用場面

このプログラムの主な対象は、小学生の子どもをもつ保護者です。ただし、乳幼児期の子どもをもつ保護者、中学生の子どもをもつ保護者の方にも十分活用できます。

### 【学校（小中学校）では・・・】

- ・学級、学年懇談会
  - ・就学時健康診断
  - ・学校行事（学習発表会や学年行事の始まる前）
  - ・1日体験入学
  - ・部活動総会の始まる前
  - ・学年学級PTA活動（体験活動やレクリエーション）の始まる前
  - ・PTA総会の始まる前
  - ・PTA役員会、運営委員会
  - ・PTA研修会（委員会ごとの研修会や全体の研修会で）や教育講演会
  - ・地区懇談会
  - ・校内研修
- 等

### 【学童保育や子育て サークル等では・・・】

- ・保護者会
  - ・説明会（会が始まる前や会  
の中で）
  - ・遠足等の学童クラブの行事
  - ・子育てサークルの定例会
- 等

### 【保育所、幼稚園では・・・】

- ・保育参観後
  - ・保護者会
  - ・遠足や発表会等の親が集まったと  
き（行事が始まる前の時間に）
  - ・役員会（会が始まる前やその会  
中の時間で）
- 等

### 【地域では・・・】

- ・町PTA連合会や郡市PTA連合会の研修会
  - ・単位子ども会での親の集まり（総会や定期的な集まり）
  - ・公民館講座や家庭教育学級
  - ・青少年教育施設などで活動の始まる前
- 等

## 6 プログラムの特徴や内容

### (1) ステップ1：「自分に気付く」 ～「親の学び」へのいざない～プログラム

#### ① 特徴

- ゲームを通して気付きを得るもの、目的をもったゲーム的な活動です。
- PTA総会、研修会や部活動総会、学級懇談会等、何らかの集まりの場で、会の始まる前に簡単に行うものです。また、会の途中で取り入れることもできます。
- ステップ2やステップ3のプログラムの導入（アイスブレイク）として活用することもできます。
- 3～5分程度でできます。
- 子どもと一緒にできるので、子ども会の集まりや学童保育の保護者の集まりの時にも活用できます。

#### ②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
1	後出しじゃんけん	3分	固定観念	進行役とのじゃんけんでは必ず負けるように後出しをする。
2	バランスをとろう	3分	時間の感覚 継続	バランス立ちをしながら時間の経過を予測する。
3	リズムにのって動かそう ～指体操・腕体操～	3分	リズム 継続	リズムよく指や腕を左右異なるように動かす。
4	パンパンタッチ	5分	予測 相手に合わせて	2人組でリズムに乗って同じように手をたたいたり広げたりする。
5	聞いて、聞いて、 リズムよく	5分	きく	進行役と同じようにリズムカルに手拍子をする。
6	それ、私！（子育て版 フルーツバスケット）	5分	一人じゃないよ	子育てに関する経験をもとにしたフルーツバスケットをする。
7	だれだろう？ 何だろう？	5分	きく 正確な情報	進行役のヒントを手がかりに言葉の連想ゲームをする。

#### 【事前の準備】

- 時間、場所、参加者の人数等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 一斉にするかグループで行うか決める。

#### 《プログラムの進め方》

- ①方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③ねらいを知らせる。

## (2) ステップ2 : 「仲間を広げる」 ～「親同士」のつながり～プログラム

### ① 特徴

- ゲーム的な感覚で活動を行うことができ、気軽な気持ちで参加でき、他者とコミュニケーションができます。
- 参加者が、活動を通してこれまで以上にお互いに親しみを持ち、「つながる」「知り合いになる」ことができます。
- PTA役員会や部活動の各部の集まり、学年・学級懇談会、学童保育の保護者の集まりなど、いろいろな場で行うことができます。
- 主活動そのものを、アイスブレイクとすることができます。
- ステップ1のプログラムとの組合せを工夫すると効果的です。

### ②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
8	アイコンタクトで意思表示	15分	コミュニケーション	身振り手振りなどを使ってグループに分かれ自己紹介をする。
9	頼って信じてウォーキング	15分	コミュニケーション	ペアで誘導役と目を閉じて歩く役になり、誘導に合わせて歩く。
10	何と言ったかな？ きいて、きいて！	15分	「聞く」と「聴く」	複数の人が同時に発する言葉を当てるゲームをする。
11	トーク&トーク ～すごろくde紹介～	20分	コミュニケーション	すごろくを使い、多様な課題をもとに自己紹介をする。
12	話して！聞いて！ ～わいわいがやがや サイコロトーク～	20分	コミュニケーション	サイコロの出た目の話題をもとに自己紹介をする。
13	あなたはどうか考えますか？ ～1枚の絵から広がる イメージ～	20分	多様な見方	1枚の絵を協力して完成し、気付きを話し合う。
14	わたしの考え、あなたの 考え～いろいろな考えを 聞いてみよう～	20分	いろいろな考え	問題に対し自分の考えを明らかにし、グループで話し合う。

#### 【事前の準備】

- 時間、場所、参加者等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 準備物等は事前に必要数を調べ、やや多めに用意する。

#### 《プログラムの進め方》

- ①活動の方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想をお互いに発表し合う。
- ④ねらいを知らせる。

### (3) ステップ3 : 「仲間と深める」 ～「親の役割」を見つめる～プログラム

#### ① 特徴

- P T A 研修会や地区懇談会、学年・学級懇談会に研修として活用することができます。
- 親の役割等についてじっくり考えることのできるプログラムです。
- 参加者が、ロールプレイやケーススタディで、自分の考えを話したり、他の人の意見を聞いたりすることを通して、自分自身を見つめることができます。  
また、新しい価値観に触れたり、これまでの子育てを再確認したりすることで、子育てに対する不安や悩みを軽くしたり、子育てに自信をもつことができるようになったりします。
- ステップ1やステップ2のプログラムと組み合わせると効果的です。

#### ② 内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
15	よく使う言葉は？～言葉の力について考えよう～	20分	言葉の力	日ごろ使っている言葉をワークシートを使って振り返り、言葉のいろいろな力について話し合う。
16	これって「反抗期」？～子どもも成長、わたしも成長～	25分	親のかかわり方	子どもの気持ちに寄り添ったかかわり方について事例をもとに考え、話し合う。
17	子育てで広がる夢・喜び～子育ての歩みとこれから～	30分	歩みと見通し	子育てに対する気持ちの移り変わりをマインド曲線で表し、子育てに対する思いを話し合う。
18	わが家で大事にしたいこと	40分	わが家の1か条	子育てで大切にしていることをランキングし、その理由を話し合う。
19	ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！	40分	食生活	食生活で大切にしていることをエピソードをもとに確認し、互いの食生活を紹介しあう。
20	伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを 考えて～	45分	コミュニケーション	お互いが嫌な気持ちにならない対応の仕方についてワークシートをもとに考え、話し合う。
21	だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、 話してみよう～	45分	悩みの共有	いろいろな悩みへのアドバイスを通して、悩みがあるのは自分だけでないことや多様な考えがあることを話し合う。
22	地域の子どもは地域みんな で育てよう～ステキな 「ひと・もの・こと」～	45分	地域のよさ、ひと・もの・こと	作業を通して、自分たちの住んでいる地域の人のつながりを含めた「よさ」について話し合う。

## 【事前の準備】

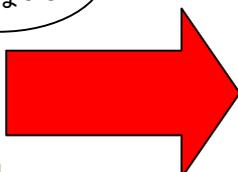
- 時間、場所、参加者等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- ステップ1のプログラムやステップ2のプログラムとの組合せができるかどうか考える。
- ワークシートなどの準備物がある場合は、事前に必要数を調べ、やや多めに用意する。
- 掲示用のキーワードは1度作成したら保管しておき、次回からの講座で活用するようにする。

## 《進め方》

### 1 「活動のねらい」を確かめます



今日の活動の  
ねらいは・・・



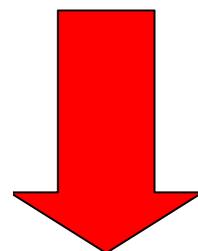
なるほど  
なるほど

キーワードを提示して、  
活動のねらいを説明します。

### 2 アイスブレイクをします



簡単なゲームで、  
心と体をほぐします。



### 4 「活動のまとめ」をします

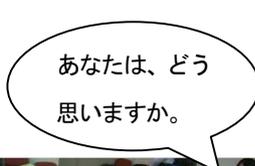


今日は、「わが家の1か条」  
を作りましたね・・・

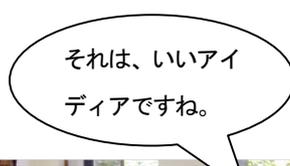


活動を振り返り、まとめをします。

### 3 グループで活動をします



あなたは、どう  
思いますか。



それは、いいアイ  
ディアですね。

▼グループワーク

▲グループでの話し合い



これは、こちら  
ですね。

☆受講者、進行役、だれもが気を付けることは、すべての人の人生に敬意を払うことです。参加者のだれもが安心して話せるように、講座中に聞いたプライベートな情報を他の場所で話すことは厳に慎むよう参加者に伝えましょう。

# コラム

○くまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編では、言語コミュニケーションを中心としたプログラムと非言語コミュニケーションを中心としたプログラムがあります。

コミュニケーションには、大きく2つの種類があるとされています。

## ①言語コミュニケーション

（「バーバルコミュニケーション」とも言われています。）

- ・自分の考えを書いたり話したり、また、他の人の意見を聞いたりする活動、会話や文字等、言語を用いたコミュニケーションのこと

## ②非言語コミュニケーション

（「ノンバーバルコミュニケーション」とも言われています。）

- ・動作（ジェスチャー）、身振り手振り、顔の表情や声の大きさ・トーン等、言語を用いないコミュニケーションのこと

○くまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編には、非言語コミュニケーションのプログラムがあります。

ステップ	プログラム番号	プログラム名
1	1	後出しじゃんけん
	2	バランスをとろう
	3	リズムにのって～指体操・腕体操～
	4	パンパンタッチ
	5	聞いて、聞いて、リズムよく
	6	それ、私！（子育て版フルーツバスケット）
2	8	アイコンタクトで意思表示
	9	頼って信じてウォーキング

○非言語コミュニケーションプログラムを実施するときには、以下の点に気を付けましょう。

- ①楽しく活動することができますが、活動を通して「何を伝えたいか」「ねらいは何か」をしっかりと伝えたり感じ取らせたりすることが必要です。
- ②感じたことを「日常生活に活かしていこうとする気持ち」を持たせることも必要です。  
進行役が話をするとき、生活と結び付けた話をするとよいでしょう。